

学校評価シート（秋田県立大曲支援学校せんぼく校）

評価領域	教育課程
------	------

重点目標	社会に開かれた教育課程の実現と特色ある教育活動の展開
------	----------------------------



現 状	校内組織「地域が教室実行委員会」を設定し、全職員の共通理解のもと、「地域が教室全体計画」を基に、活動の目的や活動内容を明確にして、全校や各学部で活動を展開している。その中で、教育活動に関わっている方々などを対象にした「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」を今年度も実施し、活動の意義の共有や教育活動に関する評価をしていただく機会としている。
-----	---



具体的な目標	「地域が教室全体計画」に基づく地域の意見を反映させた学校づくり
--------	---------------------------------



目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 「地域が教室全体計画」を基にした、目的や全体像の共通理解 2 地域が教室実行委員会と教育課程検討委員会の校内組織を連動させた効果的なPDCAサイクルの実践 3 「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」における、地域の方々への児童生徒の理解推進に向けた活動の工夫
------------	--



具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 年度初めに「教育課程・教育資料説明会」を開催し、全職員で「地域が教室全体計画」を基に、目的や全体像と合わせて、3学部の取組内容を共有した。 2 地域が教室実行委員会で話題となった事柄や課題等について、教育課程検討委員会でも取り入れ、特色ある取組としてさらに検討、修正した。 3 地域が教室はじめの会で、地域の方々が生徒に参加する時間や、グループ協議に高等部の生徒も参加し、地域の方に、直接、気持ちを伝えたり、地域の方の話を聞いたりする時間を設けた。
----------	--

達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 年度初めに、全職員で「地域が教室」をテーマとした学習活動の意義や目的、全体像について共通理解したことにより、計画的に、明確な目標を目指して活動を展開した。 2 地域が教室実行委員会において話題となった教育活動に関連した検討事項や改善点等を教育課程検討委員会につなげ、教育課程の検討に反映させた。 3 「地域が教室はじめの会」で、普段、関わりが少ない学部への授業参加をしていただいたところ、「思いやりの心が育っている。」「観光科は、将来につながる学習をしていると思う。」等、多数の御感想をいただいた。学習のねらいを御理解していただいた上での御助言や御感想を、可能な範囲で取り入れ、実現したことが、児童生徒の自己有用感の醸成にもつながっている。
------	--



P

D

自己評価	(評価) A	(根拠) 「地域が教室」を学習テーマとした教育活動について、全職員に、取組の意義や目的の共通理解が図られたとともに、取組については、地域の方々にも、周知されてきている。地域の学校としても、認知されてきている。	C
------	---------------	---	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・「地域が教室」をテーマとした教育活動が具体的かつ活発になされ、目標が達成できた。 ・「地域が教室」を具体化する多くの取組に感銘を受ける。今後ともアイデアを駆使して、地域との関わりを追求していただきたい。 ・「地域が教室」の取組は年々充実した活動が進められている。はじめの会・まとめの会への参加者も多く、せんぼく校は様々な方々に支えられていることが分かる。普段かかわりの少ない学部の授業参観者の感想を見ても高評価のようなので、いろいろな方からの感想や意見を聞くことは大切だと思う。 ・素晴らしい活動が多かった。地域が教室になれるよう、さらにがんばる地域になろうと思う。 ・「地域が教室」における活動では、生徒が地域の資源の本物に触れるとともに、地域の方々への児童生徒理解につながり、有意義な活動になっていると感じられる。 	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	「地域が教室」全体計画に基づいた各学部の教育活動について、これまでの積み重ねの中から、学校と地域が相互に高め合うことができる取組を精選する。また、はじめの会・まとめの会・せんぼくいきいき3デイズなど毎年取り組んでいる教育活動の内容を見直すなど、充実に向けて検討を図る。	A
-----------------------	--	---

学校評価シート（秋田県立大曲支援学校せんぼく校）

評価領域	進路指導
------	------

重点目標	卒業後の自立と社会参加を見据えたキャリア教育の充実と生涯学習の推進	P
現 状	<p>開校から学部毎に地域の伝統工芸等を取り入れた作業学習を行っており、昨年度は、職員間で作業学習で生徒の育てたい力等を再確認した。今年度は、生徒の目指す資質・能力を明確にした各学部のつながりのある進路学習の展開を推進していく必要がある。</p> <p>生涯学習については、県生涯学習センターや仙北中央公民館に協力をいただきながら行っている。青年学級の活動には、2年前から在校生へ参加を呼び掛け、在学中から地域の生涯学習への関わりがもてるようにしている。今年度は、希望するニーズの内容の確認と地域の方にも活動を知ってもらい、参加を呼び掛ける必要がある。</p>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が将来の姿をイメージしたり、卒業後の進路に対する意識を高めたりすることができるよう、他学部児童生徒の作業学習の体験や進路学習等への参加の推進 ・在学中から参加できる魅力あるせんぼく桜スクールの運営とニーズに応じた生涯学習（余暇活動）の紹介と地域への情報発信の推進 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> (1) 進路に関わる指導内容表を提示し、実施時期、いつ、どのような授業に取り入れられるか担任と話合いの実施 (2) 職場見学、職場体験と連動させて実施 (3) 希望する生涯学習の活動のニーズの聞き取り (4) ホームページや市報等を活用し、活動を紹介 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年度初め、年度途中に進路に関わる指導内容表を提示し、具体的に生徒の何をねらい、いつ頃、どの授業の見学や体験をするのか話合いを実施し、調整した。 (2) 職場見学、体験の計画の中に上の学部の見学や体験を実施した。 (3) 年度初めに児童生徒保護者へ希望する余暇活動の内容を問うアンケートを実施し、中央公民館と情報を共有し、実施できる公民館講座について話し合った。 (4) 事前のお知らせは、学校ホームページと市報でのお知らせを行い、実施後は、学校ホームページで活動の様子を紹介した。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関わる指導内容表を提示し、進路学習について主に中学部の担任と話合いの機会を設定した。計画している職場見学、職場体験等の単元計画に、上の学部の学習を見学、体験を入れたことで、生徒の学校卒業後のイメージだけでなく、学部が上がることへのイメージについても生徒の実態に合わせて高めることができた。 	

	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでニーズを聞き、その内容を取り入れた活動にしたことやホームページや市報を使って事前のお知らせをしたことで、在校児童生徒、保護者の参加人数が増え、地域の方の参加者も増やすことができた。せんぼく桜スクールの活動を在校児童生徒保護者、地域の方に浸透させることができた。また、同窓生に呼び掛け、地域のイベントで太鼓演奏を実施し、同窓生の余暇活動の範囲を広げることができた。 	
--	---	--

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> 職場見学、体験の学習計画の中に取り入れたことで、生徒の段階に合わせたイメージをもたせることができた。 ニーズを聞き取り、活動に取り込むこと、事前の周知と実施後の活動紹介を行うことで、在校児童生徒保護者だけでなく地域の方の参加者が増え、活動を周知することができた。今後も公民館等と情報交換の機会を多くし、ニーズに応じた活動を取り入れていきたい。 	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> 職場見学や体験を取り入れてキャリア教育の充実のための具体的な取組が行われるとともに、生涯学習につながる取組もなされ、目標は達成されたと考える。 進路指導での「地域が教室」がキャリア教育にもつながり、相乗効果が出せていると思う。 今年度は各学部の一連のつながりのある進路学習を展開しており、生徒の段階に合わせ、イメージをもたせた指導がされているので、今後も継続した指導をお願いしたい。 子どもたちの適性を見極めることも重要ですが、何か好きなことを見つけることがさらに重要かと思う。「適性＝好き」ではないこともあって難しい。 職場見学や体験などで実際に作業を行う中で、生徒が将来に対してのイメージをもつことができたことは大きな成果だと感じた。今後も一人一人のニーズに合わせた取組を行うことが必要だと思う。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育や進路指導について、進路に関わる指導内容表を活用し、ねらいを明確にした他学部参観や職場見学、職場体験等を計画的に実施する。 生涯学習について、青年学級（せんぼく桜スクール）の活動が定着してきているので、地域の公民館等との連携を絶やさないようにして、取組を継続する。 	A
-----------------------	---	---